

旧村川別荘だより



平成31年4月19日発行
旧村川別荘市民ガイド事務局
我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課
歴史文化財担当：斉藤、海老原、手嶋、今野
〒270-1166
我孫子市我孫子1684番地
TEL:04-7185-1583(直通)
E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

4月の月例会が開催されました

4月と5月のシフトの確認を行いました。
今年度は、木村、田中と二人の異動があり、新しく斉藤と海老原が加わりました。よろしくお願ひします(*^-^*)

「カメラからのぞいた風景」展

年度初めの月例会はスペシャルゲスト村川夏子さんを招いて4月27日(土)からはじまる「カメラからのぞいた風景」展の展示解説をお願いしました。

夏子さんのお家にはお父様の正二さんが撮影した写真がたくさんあるそうです。その中から選りすぐりの作品をお借りしてきました。今回展示している作品は、以前に雑司が谷のお家が一般公開されたときに展示した内容になっています。

正二さんはカメラが好きで、当時は家を買えるほどの値段で売っていたカメラを数台持っていました(そのうちの一台「ツァイス・イコンタ」は初給料で買ったそうです)。ただそれは、目的に応じてカメラを使い分けていることから、「単なる趣味」でなかったことがわかります。また、正二さんは手帳に備忘録を事細かに残していること、アルバムで写真を整理していることから、その写真はとて資料価値が高いことがわかります。

たとえば、現像や引き伸ばしはご自分で自宅を使って行っていたことが備忘録によってわかりますし、堅固さんが日記には書いていない堅固さんの日常を備忘録から読み解くことができます。このお話を聞いて、お家に暗室があったのかと驚きましたが、どうやら光が入らなければ現像ができるようで、流しなどを使って現像されていたようですが、どこで現像されていたかは特定できないそうです。

正二さんの生涯については、当日お配りした資料をご参照していただくこととして、その生涯には当たり前ながら、社会的背景の影響がありまし

た。例えば、正二さんが建設にかかわった新丸の内ビルディングは、幻の東京オリンピックを目指して建てられたものでしたが、日華事変の影響で杭を打ったものの、工事が中断してしまいました。オリンピックによる建設ラッシュ。歴史は繰り返されているようです。

それでは、いくつかのテーマに分けられた写真を見ていきましょう。

① 村川家の人びと

このコーナーだけが正二さんが撮った写真ではありません。記念写真(この写真が一番若い正二さんが写っているものです)、堅固さんが撮った写真、同僚に撮ってもらった写真、使ったカメラを貼っていたアルバムの表紙を写した写真、正二さんがかかわった仕事の写真が並びます。待乳山聖天堂で有名な大根の絵は、正二さんがデザインしたので、そのスケッチが村川家にあるそうです。

② 雑司が谷の風景

目白台にある村川さんのお宅の様子です。もみじの写真がありますが、夏子さんが「紅葉は日本家屋にとっても合っていて、夏は葉っぱが日差しを遮り、秋に落葉するので、冬は部屋の奥まで日差しが入る」とおっしゃられていたのが、印象的でした。旧村川別荘の母屋と新館にも紅葉があり、雑司が谷のお家の考えと共通していると思いました。また、門脇の欖は江戸時代から並木としてあったようですが、大正時代にほぼ切られてしまい、村川さんのお宅に2本残るのみだったようです。そのうち一本はいまも健在です！



③ 我孫子の風景

当時の人びとはなかなか写真を撮る機会がありませんでした。機会と言えば、家族の記念写真だったようです。ですので、日常的な風景が撮影することはまれでした。特に場所が我孫子となると、なかなか撮影されることは少なかったため、正二さんが撮影したこれらの写真は、当時の我孫子を知るうえで、とても貴重な資料になります。

④ 鵜沼の風景

村川さんは鵜沼にも別荘を持っていました。「園主」が撮影された年は昭和16（1941）年。時代は太平洋戦争に向けて動いているところです。そこで、堅太郎さんは園芸を楽しんでいた温室を食糧生産に切り替えました。また、シクラメンの写真がありますが、こちらは個人的にカッコいい写真と気に入っています。いまは冬になると町の彩を豊かにしてくれるシクラメンですが、当時高価なお花だったことに驚きました。また、鵜沼の海水プールは湘南地域の学童の体位向上と水難事故防止を目的に作られたものですが、戦後は海水汚染のために海で泳ぐよりも安全な海水浴場であったようです。平成12（2000）年に閉鎖されました。



⑤ 丸の内の風景

正二さんの職場の近くであった丸の内の風景写真がまとめられて



います。街を歩くと映画の撮影でしょうか？お洒落な建物を前にカメラが何台もたっています。また、東京駅の写真もあります。周りに何も高い建物がないのがいまと違いますが、駅の趣自体は変わっていません。

⑥ 深川の風景

深川の風景では、同じ場所を撮影している写真が連続してあります。これは、望遠レンズでどのように撮影できるのか研究している写真であることがわかります。

⑦ 街の風景

「都会ノ秋」では、たくさんの果物が並んでいます。千疋屋あたりか？と夏子さんは予想していますが、それは、正二さんの備忘録を見ると、「田中先生にメロンを贈った」と書かれているという背景からお店の名前が導きだされたそうです。また、「居留地ノ岡」は現在の港が見える丘公園を撮影した写真です。「門前風景」は雑司が谷のお宅の近くにある護国寺を背にして音羽通りを撮影したものです。当時は都電が走っていて、この写真には写っていませんが、都電の切り替えポイントに作業する人のための塔が建っていたそうです。

連絡事項

我孫子ゴルフ倶楽部で観桜会が行われ、今年も大盛況だったようです。旧村川別荘ボランティアガイドさんからもお手伝いに参加されたり、見学にお越しいただいたりされたかたもいらっしゃいました。

今年も5月11日（土）～6月9日（日）まで「我孫子アートな散歩市」が開催されます。旧村川別荘の母屋も会場となりますが、新館は「カメラがのぞいた風景」展を開催しているため、通常どおりの開館となります。よろしく願い申し上げます。

写真展とともに村川堅固さんと堅太郎さんの著書を展示しています。どなたでもお手に取って内容を見ることがができますので、その場でお楽しみいただければと思います。また、雑司が谷のお家について紹介している本も展示していますので、併せてご覧ください。

今年のゴールデンウィークは、ガイドさんは5月1日（水）、2日（木）がお休みとなります（旧村川別荘は開館しています）。また、シルバーさんが連休の都合で7日（火）、8日（水）がお休みのため、旧村川別荘も閉館します。

また、連休中は旧井上家住宅で5月1日～5日まで五月飾りと人形展、4日、5日と鉄道模型の運転会を行っています。ご都合が良ければ、お越しください（*^-*）

次回は・・・

令和元年5月9日（木）午前9時半
から旧村川別荘新館にて月例会を行います。
次の月例会は「令和」になっているのですね。
新しい年もよろしく願いします！

旧村川別荘だより

146号



令和元年5月21日発行
 旧村川別荘市民ガイド事務局
 教育委員会 文化・スポーツ課
 担当：斉藤、海老原、手嶋、今野
 〒270-1166
 我孫子市我孫子1684番地
 TEL:04-7185-1583(直通)
 E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

5月の月例会が開催されました

今回は史上初?とも言える長い10連休のあと、令和になってはじめての月例会を9日に行いました。月例会では5月と6月のソフト調整のほか、いくつか連絡事項をお伝えしました(後述の連絡事項をご確認ください)。

「平成30年度の発掘調査成果について」

今回の月例会では、昨年度行った発掘調査について、文化・スポーツ課の手嶋よりお話をさせていただきました。

●古代の我孫子について

◎古墳時代

我孫子市の古墳は、手賀沼沿いと利根川沿いに集中しています。なぜここに古墳が集中しているのかというと、自分の権力を誇示するため、外から見えることが重要だからです。我孫子のように水辺に囲まれている場所では、船で来た時にふと見上げると見える小高いところになります。

手賀沼沿いの水神山古墳は昭和40年代に発掘された4世紀後葉のもので、当時は我孫子最古の古墳と言われていました。しかし、後の調査で前原古墳という3世紀後葉の古墳が発掘されました。水神山古墳は前方後円墳で、前方後円墳の巨大なものは畿内が中心です。このことから、4世紀ぐらいには、中央と我孫子はかなり交流があったと考えられます。

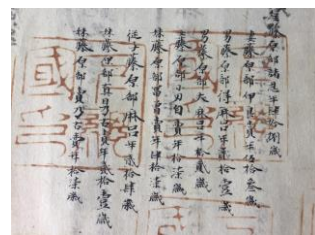
◎奈良・平安時代

古墳時代との一番の違いは、律令という法律ができたことです。では、当時の我孫子はどうだったのか。我孫子には、下総国相馬郡の中心となる役所、郡衙が置かれており、地方都市としてはかなり栄えていたと考えられます。郡衙が置かれていたと考えられるのは、日秀西遺跡(現在の湖北特別支援学校)で、税として集めた米を貯めておく掘立柱の建物がきれいに並んだ形で見つかったためです。

次に「久須波良部」と書かれた墨書土器についてお話しします。

ところで正倉院文書には、養老五(721)年の相馬郡の戸籍が残っています。そこには藤原部という一族がいたことが書かれています。では、久須波良部と藤原部、どのような関係があるのでしょうか?

実は『続日本紀』に天平宝字元(757)年に藤原部という名前の人が久須波良部に変更するよう求められたことが記されています。このことから、戸籍に記されていた人々が実際に我孫子に暮らしていたことがわかり、かつ墨書土器の久須波



良部にもつながるのです。墨書土器は湖北郷土資料室に展示されています。まだ見たことのない方は、ぜひ一度資料室へ足をお運びください。

●平成30年発掘調査成果について

それではいよいよ本題に移ります。昨年掘った遺跡のうち、中里区にある別当地遺跡についてお話しします。ここでは主に奈良・平安時代の竪穴建物や掘立柱建物が発見されています。今回の調査では、約4,500㎡と広範囲の調査が行われ、竪穴建物54棟、溝3条、土坑44基、円形有段遺構1基が確認されました。



溝とは何でしょうか?昔の人は土地を区切ったりするのに溝を掘って境界線としていました。

今回発見された溝は、日秀西遺跡にある相馬郡衙に関連する区画の溝ではないかと考えられます。

写真からもわかるように、溝の上から竪穴が作られています。竪穴が9世紀くらいと考えられるため、溝自体は8世紀くらいのものであると考えられます。

◎すり鉢状の遺構？

今回の発掘で確認されたものとして、円形有段遺構があげられます。これは幅3m×深さ3mと大きくて深いもので、すり鉢状になっており、底近くに平らな面と中央にもう一段掘り込みを持っています。これは何の跡なのでしょう。



このような遺構は全国的に見つかっています。県内でも市川市須和田遺跡などで類例が報告されており、古代の氷室ではないかと考えられます。

通常、遺構から出た遺物によって時代を

考察することができますが、今回は有力なものが出てこなかったため、この遺構のみでは時代の特定は困難でした。ただし、この遺構は7世紀と9世紀の竪穴に挟まれていました。そのため、この有段遺構は8世紀くらいのものではないかと推測できます。

先述した市川市の須和田遺跡も8世紀後半のものとして報告されているため、大体同時期ではないかと考えることができます。

◎玄関のある竪穴建物？

今回、玄関のある竪穴建物も発掘されました。建物に玄関があるのは普通なのでは？と現代の感覚では思いますが、実は基本的に竪穴建物には玄関はありません。跡として残っているのは非常に珍しく、今のところ類例は見つかっていません。周囲の状況から、8世紀中葉までの建物であると考えられます。また、この建物にはカマドの跡が2つあります。当時カマドはある程度使用すると付け替えるものであったため、ある程度長い期間

使用していた建物であるということも推測できるのです。

◎調査から見えてきたこと

今回の遺跡の調査で、相馬郡衙の様相の一部が明らかになりました。別当地遺跡には、今までも郡衙で仕事をする役人などが暮らすための居住区（官舎のようなもの）が存在すると考えられてきましたが、今回の調査でその考えにより信憑性が増したことになります。

現在推定される郡衙遺跡の規模を見ても、我孫子という地が重要な役割を担っていたことがわかります。

連絡事項

前回もお話させていただきましたが、今年も11日（土）～6月9日（日）まで「我孫子アートな散歩市」が開催されます。旧村川別荘の母屋も会場となりますが、新館は「カメラがのぞいた風景」展を開催しているため、通常どおりの開館となります。開催中、何かお気づきの点や、確認事項等ありましたら、文化・スポーツ課までご連絡ください。

また、今回この旧村川別荘だよりとともに、名簿作成の同意書を送付させていただきます。

前回の名簿作成から時間が経過し、電話番号等の変更があった方や、新しく加わった方もいらっしゃいますので、令和元年のこの機会に、改めて作成したいと思います。前回までにいただいた情報を記載してありますので、変更があった場合または公開したくない情報がある場合はその旨ご記入ください。個人情報となりますので、公表項目等については、皆さまのご判断にお任せいたします。6月の月例会にお持ちいただくか、教育委員会にご持参・ご郵送いただきますようお願いいたします。※個人情報のため、シフト表のボックスには入れないようお願いします。

名簿は、7月1日の月例会で配布できればと考えています。

次回は・・・

令和元年6月1日（土）午前9時30分

から旧村川別荘新館にて月例会を行います。今年度に入って初の1日開催です。どうぞよろしく申し上げます！

旧村川別荘だより

147号



令和元年6月17日発行
 旧村川別荘市民ガイド事務局
 我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課
 歴史文化財担当：斉藤、海老原、手嶋、今野
 〒270-1166
 我孫子市我孫子1684番地
 TEL:04-7185-1583(直通)
 E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

6月の月例会が開催されました

6月1日(土)に月例会が開催されました。7日には梅雨入りが発表され、雨の多い季節となります。雨の旧村川別荘も風情があって素晴らしいですが、ぬかるみなどもありますので、足元にはお気をつけてご来荘ください(*^-^*)

杉村楚人冠記念館展示

「てがみ展 お悔やみのてがみ」について

今回の月例会では、7月7日まで開催される杉村楚人冠記念館のテーマ展示について、高木学芸員よりお話いただきました。

●お悔やみのてがみについて

この時代は弔電の習慣もなく、お悔やみといえば手紙を送ることが主流でした。定型の構成はありますが、比較的アレンジをきかせて自分らしさを出している手紙も多かったようです。

楚人冠には8人の子どもがいましたが、そのうち5人が若くして亡くなっています。

今回は長男・浩が死亡した際のお悔やみの手紙7通、次男・二郎、三男・時雄が死亡した際、海外から寄せられた手紙3通を展示しています。

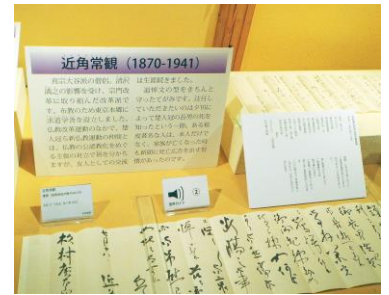
◎長男・浩のお悔やみの手紙

浩は慶応大学の学生でしたが、肺結核にかかり、大学を辞めて療養に専念したものの回復は叶わず、大正11年に20歳で亡くなりました。

①貴族院議員の坪井九八郎は、楚人冠が第一次世界大戦の取材を終え、アメリカ経由で日本に帰る際、サンフランシスコからの船で一緒になりました。坪井の手紙は文語体で書かれており、初めに子どもが亡くなったことを知り、驚き、次に相手への思いやりと自分の悲しみを表わし、最後に締め言葉で結ぶという非常にオーソドックスな、お悔やみ文の定型のような文章です。

②近角常観の手紙も、基本的には定型文に近いものです。近角は浄土真宗の僧侶で、楚人冠とは20歳ごろからの付き合いです。

坪井の手紙と異なるのは、夕刊によって浩の死を知ったと書かれていたことです。当時は連絡手段が限られていたため、夕刊の死亡広告欄を確認することで、お悔やみを言うべき人の情報を知ることができたのです。



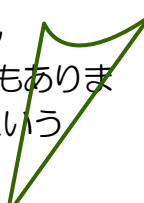
③教育者・仏教学者の高楠順次郎からの手紙です。彼は歌人ではありませんが、この手紙には、和歌が2首添えられています。恐らく高楠も子どもを亡くしたことがあったので、1首目は子どもを亡くしたことについて、2首目は仏教的な世界観での慰めをうたっています。

④寒川陽光は正岡子規の弟子で、文面から2人の共通の友人も春に娘を亡くしていることがわかります。文中で「逆縁ばかりいやなもの」とありますが、逆縁とは子どもが先に亡くなってしまふことで、当時は子どもが亡くなることが多くありました。楚人冠の子どもを見ても(前述)それがわかります。

⑤下村宏は、ペンネームを海南といい、官僚から朝日新聞の経営者になった人物で、楚人冠と非常に仲の良い友人でした。

彼は歌人でもあり、手紙のメインは2首の和歌です。和歌で弔意を示すことは今ではあまりありませんが、当時は普通に行われていました。

⑥仏教学者の境野黄洋は、楚人冠とは新仏教運動からの仲間であり、今回の展示の中では唯一、口語体で書いたお悔やみの手紙を送りました。当時、お悔やみなどでは文語体が使われることが多く、口語で書かれることはあまりありませんでした。楚人冠と親しい仲であったこともありますが、このころから少しずつお悔やみというフォーマルな場面でも口語が使われ

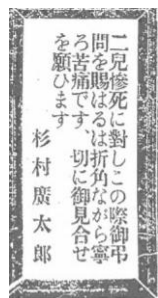


始めたことがわかります。文章の構成自体はオーソドックスで、文語体のものと変わりません。

⑦最後は新潟県の軍人、長岡外史です。長岡が師団長だった時、来日したオーストリアの軍人・レルヒからスキーを教わりました。そこに取材に行き、日本で初めてスキーのことを新聞に書いたのが楚人冠で、お互い非常に思い出深い人だったと思われまふ。この手紙では日付に注目してください。廿二日夜と書かれています。訃報を知りすぐに手紙を書いたという誠意を見せるアピールの一つとして、夜と付けたと考えられます。

◎次男・二郎、三男・時雄のお悔やみの手紙

楚人冠は大正 12 年に起こった関東大震災で、神田今川小路の長谷川病院に入院していた次男・二郎と三男・時雄を一度に亡くします。この際、日本人からのお悔やみの手紙は確認できる限り 1 通もありません。実は、楚人冠は 2 人の死がショックのあまり、新聞に死亡広告を出す際、「弔問一切ご遠慮します」と載せたのです。そのため、死亡広告欄を見ていない海外の知人達からの手紙だけが残されています。



←楚人冠が出した大正 12 年 9 月 17 日の朝日新聞死亡広告。20 日にも同様のものを掲載。「二兒惨死に對しこの際ご弔問を賜はるは折角ながら寧ろ苦痛です。切に御見合せを願ひます 杉村廣太郎」とある

1.イギリスの新聞経営者、ジェフリー・ハームスワースからの手紙です。この手紙はよほど印象に残ったのか、楚人冠が自分で訳したものが残っています。手紙にはキリスト教的な言い回しもありつつ、お地蔵様のお話をいれるなど、仏教徒である楚人冠に配慮したお悔やみ文となっています。この手紙を書いた時、ハームスワースは弱冠 19 歳でした。その若さでこのような手紙を書けることに驚きますが、彼は新聞経営者の一族に生まれ、高校卒業後、世界一周の旅に出ます。彼の伯父(デイリー・メール社長、ノースクリフ子爵)と楚人冠がイギリスで仲良くなったことが縁で来日し、楚人冠とは震災の 3 週間前に会ったばかりでした。幼いころから経営者として育てられ、他国の宗教などの教養も持ち合わせていた彼だからこ

そ、この文章が書けたのでしょ。う。

2.G.R.B.デビスからの手紙には、兄が弟を助けようと、弟の病室までやってきて亡くなったことについても触れられています。

デビスを知る人が読めば、「彼らしいな」と思うような手紙です。彼は楚人冠の『大英遊記』にも登場します。市民図書館にあるので、興味がある方はぜひ読んでみてください。

3.最後はアメリカの新聞学者ウォルター・ウィリアムズからの手紙です。「(神の) 配剤」などのフレーズから、キリスト教的な宗教観のもと書かれた手紙であることがわかります。

実物をご覧になりたい方は、ぜひ楚人冠記念館にご来館ください！ご自身の目で見ていただくことで、新たな発見があるかもしれません(^^)

連絡事項

- ・我孫子の景観を育てる会の会長が、吉澤さんから中塚さんになり、ご挨拶をいただきました。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします！

- ・「我孫子アートな散歩市」は9日に終了です。撤収なども 10 日までには終了しますので、何かお気づきの点等ありましたら、文化・スポーツ課までご連絡ください。

- ・今年も7月 12 日(金)に内覧会を開催します。杉村楚人冠記念館では、大河ドラマでも話題の「嘉納治五郎と手賀沼一幻の東京オリンピックをめぐる」と題した企画展について、白樺文学館では常設展「白樺派と我孫子」(手紙を中心に)についてご説明させていただきます。ご都合のつく方は、当日直接現地へお越しください。

- ・前回の月例会でお渡しした名簿について、お渡ししているものには市が把握している情報を掲載しています。このうち、皆さんにお知らせしていない情報には○、一覽に掲載したくない情報には×を記入し、文化・スポーツ課まで郵送・ファクス・持参のいずれかの方法でお知らせください。

※個人情報のため、シフト表のボックスには入れないようお願ひします。

次回は・・・

令和元年 7 月 1 日(月) 午前 9 時 30 分

から旧村川別荘新館にて月例会を行います。市制施行日の開催となります(^) どうぞよろしくお願ひします！



令和元年7月17日発行

旧村川別荘市民ガイド事務局

我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課

歴史文化財担当：斉藤、海老原、手嶋、今野

〒270-1166

我孫子市我孫子 1684 番地

TEL:04-7185-1583 (直通)

E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

旧村川別荘だより

148号

7月の月例会が開催されました

7月1日(月)に月例会が開催されました。昨年は6月の下旬には梅雨明けしましたが(過去68年中で一番早かったそうです!)、今年の梅雨明けはいつ頃でしょうか。真っ青な空とセミの声が待ち遠しいような気がしますね。

手賀沼と幻のオリンピックについて

7月9日から杉村楚人冠記念館で企画展「嘉納治五郎と手賀沼 幻の東京オリンピックをめぐって」が開催されます。企画展では杉村楚人冠と嘉納治五郎の関係が中心ですが、月例会では手賀沼へのボート競技の誘致や、町の関わりなどについて今野より説明しました。

●手賀沼と幻のオリンピックについて ◎新発見の資料!

今回、旧井上家住宅の資料で新たな発見がありました。井上家の資料は目録化されており、総資料約18,000点のうち、15,000点くらいが紙資料です。その中から7点、オリンピック関係の資料が出てきました。

井上家は手賀沼の干拓を進めた家です。それがなぜ、手賀沼をオリンピックの競技場にするという、いわば正反対のイベントに力を貸したのか。そこには井上家13代目当主、井上武の存在に理由があります。

◎井上武を取り巻く人々

井上は東京帝国大学時代、漕艇部に所属していました。漕艇部のOBである日本漕艇協会理事で1928年のオリンピックの際監督を務めた郷隆や、日本漕艇協会役員で1932年・1936年のオリンピックで監督を務めた東俊郎などとも関わりがありました。彼らは漕艇協会の中心人物でした。

◎我孫子とオリンピックの関わり(時系列)

昭和11年7月31日、東京オリンピックの開催が決定します。8月2日の『千葉読売』の新

聞記事には、明治42年からIOC委員を務めている嘉納に、染谷正治我孫子町長などが祝電を送ったことが書かれています。記事には嘉納の言葉として「組織の委員としては手助けできないが、嘉納治五郎個人としては、我孫子のためにできる限り協力します」とあります。



昭和12年1月20日、我孫子が正式にボート競技場として立候補しました。翌日の『千葉読売』には、交通が便利で他の候補地の半額で済むため非常に有望視されている、とあります。

この日、染谷から井上に手紙が届きます(資料1)。染谷は、ボート競技を誘致するにあたって、郷を直接訪ね陳情を行ったところ、井上と郷が知り合いだということを知った。については誘致に協力してもらえないかという内容でした。

井上は帝大漕艇部の先輩後輩というだけでなく、郷が社長を務めていた日華生命の代理店も経営していました。この資料から、手賀沼への競技場誘致の中心が我孫子町長だったことや、漕艇部OBのつながりが強かったことが読み取れます。

1月30日には、漕艇競技場委員が手賀沼へ視察に訪れました。翌日の『千葉読売』では委員は大乗り気、と書かれています。全国版の『読売新聞』では望み薄となっており、かなり温度差があることがわかります。

しかし、2月10日の第8回組織委員会で、漕艇・ヨット競技場の適地について、第一候補は戸田、手賀沼は第二候補と報告されました。我孫子が立候補する前、候補とされていた横浜を抑えての決定でした。

3月15日、井上あてにやはり帝大漕艇部OBである砂原宣雄から手紙が届きます(資料2)。ここでは前述

した漕艇協会の中心人物、東に面会しポートコースについて尋ねたところ、お金さえあれば戸田でいきたい意向だと書かれています。我孫子がコストを抑えられる（約40万円）のは、自然を活かしてのコースとするためであり、競技として考えれば新たに国際規格に則ったコースを一から掘って建設した方がいい。ただし問題はお金がかかること（189万8000円）で、予算が認められなければまだ望みがあるという内容でした。

もし、我孫子にボート競技が誘致できたとして、コースはどのように設定するつもりだったのでしょうか。



←色分けされた
コース地図
(高田氏所蔵)

5月5日に染谷から漕艇協会に出された「オリンピック漕艇競技場候補地概要」では、スタンドを今のアピスタ付近に置き、高野山からスタートして若松を通り、ゴールが根戸新田付近の予定だったようです。スタンドまでは駅から10分程で、アクセスもよく、我孫子を上手く使ったコース設定でした。

5月12日の常務委員会で、ボート競技は戸田に決定ということまで話が進みますが、嘉納から、「本当に大丈夫なのか、再考せよ」と待ったがかかります。翌13日、井上あてに平賀平作我孫子町助役より手紙が届きます（資料3）。

嘉納から電話があり、染谷が明日東京で会うことになった。ついては、同行をお願いしたいという内容で、染谷が多忙のため、平賀が代筆したようです。嘉納の名が出てくるのはこの手紙のみです。嘉納も誘致に関わり、水面下で動くなどして我孫子に配慮していたことがわかる貴重な資料です。

しかし5月18日の第15回組織委員会で、ボート競技は戸田に正式に決定されます。

5月24日、井上あてに染谷から礼状が届きます（資料4）。ここには2通入っていました。1通は井上へのお礼、もう1通は染谷あて日本漕艇協会から却下理由等が書かれた書簡です。原本もコピーでお渡ししてあります。お時間のある時

にぜひ読んでみてください。

◎今回の資料からわかったこと

- 手賀沼誘致の際の水面下での動き
- 干拓を行っていた井上家と我孫子町の関係が険悪なものでなかったこと（我孫子の発展のため、誘致に協力してくれたこと）
- 嘉納治五郎が誘致に関わったこと（それまでは関わった、という話はあっても資料として見つかっていなかった）

すべてが幻に終わってしまった昭和15年の東京オリンピックですが、誘致に動いた人々の尽力など、幻でなかったものもあります。今回ご紹介した資料は、企画展でも展示していますので、ぜひご確認ください(*^-^*)

連絡事項

- 竹灯籠の夕べの日程が決定しました！

11月1日（金）と2日（土）です。

※月例会では8日（金）・9日（土）とお伝えしましたが、開催イベント等の都合により1週間開催が早まりました。8月の月例会でも改めてお知らせします。

- 今年度の研修会が決定しました！

12月3日（火）です。行程は、茨城県つくば市の矢中の杜・国指定史跡の平沢官衙、稲敷市の大日苑となります。矢中の杜は昭和初期の近代和風住宅、大日苑は江戸崎入干拓の生みの親である植竹庄兵衛が昭和14年に建てた住宅で、両施設ともNPOや保存会の方がガイドをしてくださいます。平沢官衙はもちろん、我が辻先生によるガイドです！

これらの施設については、研修会が近づくころ月例会で改めてご説明させていただきます！まだ先ですが、ぜひとも皆さま予定を空けてお待ちください！

次回は・・・

令和元年8月1日（木）午前9時30分

から旧村川別荘新館にて月例会を行います。

夏真っ盛り、暑くなると思いますので皆さま体調などお気をつけください(^)

どうぞよろしくお祈いします！

令和元年8月15日発行

旧村川別荘市民ガイド事務局

我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課
歴史文化財担当：斉藤、海老原、手嶋、今野

〒270-1166

我孫子市我孫子 1684 番地

TEL:04-7185-1583 (直通)

E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

旧村川別荘だより



149号

8月の月例会が開催されました

8月1日(木)に月例会が開催されました。昨年に比べ長かった梅雨が終わると、夏全開!といった酷暑になりました。この暑さはいつまで続くのでしょうか。熱中症などの危険もありますので、皆さまどうぞご自愛ください。

お菓子の歴史について

和菓子・洋菓子という表現は西洋からお菓子がたくさん入ってきた明治くらいに生まれた言葉です。今回は日本に昔からある和菓子についてお話しします。

●和菓子の変遷

①果物や木の実

一番初めのお菓子は何でしょうか?実は、縄文時代にもクッキーがあったそうです。実際に発掘で見つかることもあるようです。もちろん今のクッキーとは全くの別物で、木の実をすりつぶして、でんぷんで固めたもののようです。人類が初めてつくった加工食品と言えます。

②餅や団子

時代が進むと、米、麦、稗、粟などの穀物を材料として、人の手を加えた餅や団子が登場します。これらは、今も受け継がれ和菓子の基本となっています。

700年代の正税帳によると、大豆餅と小豆餅が朝廷に納められています。煎餅もあったようですが、小麦麵を油で炒ったものとされており、今とはちょっと違うお菓子だったようです。

③唐(から)菓子

7世紀ごろ、外国から新しいお菓子がやってきます。日本は、当時最先端の律令制という国家思想を唐から輸入し、その時に多くの文物と一緒にお菓子も輸入されました。米粉や小麦粉などの材料を油で揚げ、甘葛煎(あまづらせん)※などで甘味をつけました。

〈甘葛煎って?〉

冬季のツタの樹液を煮詰めてシロップにした古代の甘味料です。奈良女子大学では平成27年、甘葛煎再現プロジェクトを行いました。大学構内に自生するツタから樹液を集めます。糖度13度くらいの1ℓの樹液を10分の1まで煮詰め、糖度76度くらいのシロップにします。

大人30人ほどが丸1日かけ、100ccの甘葛煎ができました。このことからわかるように、作るのにかなりの労力が必要なため、一般にはなかなか手にはいきませんでした。

④点心(てんじん)

唐菓子に続き中国から禅とともにもたらされ、茶の湯と結びつき発展。現在の羊羹や饅頭のもととなりました。

中国で羊羹は羊や魚などの汁物を指し、これらの肉を使って作られます。しかし、戒律により肉や魚を食べない僧によってもたらされたため、代用として小豆や大豆などが使用されました。室町時代にはご飯としての羊羹と茶席の菓子としての羊羹が登場します。このころの羊羹は今の蒸羊羹と同じ製法で作られていました(小麦粉や葛粉を加えて蒸し固める製法)。

※今よく食べられている煉(ねり)羊羹は寛政年間(1789~1801年)に作られたとされています(喜多川守貞『類聚近世風俗志』より)。

また、菓として使用されたお菓子もあります。

- 白雪糕(はくせつこう) …うるち米ともち米に砂糖と蓮の実の粉を混ぜて固めて蒸した落雁に似たお菓子。砕いて湯に溶かし、母乳の代わりや滋養強壮薬として用いられました。

- 外郎(ういろう) …ういろうは仁丹によく似た形状で、透頂香(とうちんこう)とも。古くは汗の臭いを打ち消すために

用いられたが、現在では主に口臭予防や口内清涼等に使用される。強い薬のため、口直しとしてつくられたのがお菓子のいろいろという説があります。



いろいろ菓→

歌舞伎十八番「外郎売」

享保3（1718）年に二代目市川團十郎が咳と痰で台詞が出ずに悩まされた際、いろいろ菓で全快し、そのお礼として初演された演目。

⑤南蛮菓子

戦国時代にヨーロッパとの交渉がはじまり、砂糖を大量に使うカステラ、金平糖、ポーロや有平糖が作られるようになります。当時日本人は鶏卵を食べる習慣があまりなかったため、和菓子に鶏卵が使われたのは、南蛮食文化の残した大きな足跡の一つです。朝廷へ献上されたり茶の湯に使われる「上菓子」は、使われる材料も高級で、砂糖は氷砂糖や白砂糖が用いられていました。

上菓子は当初京都が中心でしたが、新天地を求めた菓子店が江戸に多くやってきたため、次第に江戸にも広まってきました。

●和菓子 新たな門出

明治維新後、海外の文化が輸入され洋菓子が作られる中、あんぱんやどら焼きなど、洋菓子と和菓子を融合させたお菓子が生まれました。

◎どら焼きについて

江戸で発達した焼き菓子の一種で、元禄年間（1688～1704年）ごろから庶民に親しまれました。江戸前期の助惣のどら焼きに始まる説があります。助惣のどら焼きは麩焼（ふのやき）の一種で、小麦粉をこねて薄くのばし、餡を包んで焼いたものでした。皆さんおなじみのどら焼きとは少し違いますね。では、今の「どら焼き」ができたのはいつごろでしょうか？

始まりは明治の初めごろと言われています。「梅花亭（本店：中央区新川）」によると、二代目が銅鑼の形をヒントに「どら焼き」を作ったとあります。しかし当時は一枚の皮で餡子を包んでお

り、二枚の皮で餡子を包んだどら焼きは、「うさぎや（上野広小路）」がはじまりと言われています。

白樺派の一人、武者小路実篤は甘いものが好きで、特に餡子が大好きだったようです。

新宿にある和菓子店「時屋」には武者小路もたびたび訪れていたようで、店には時屋あての色紙が飾られている

ほか、包装紙も武者小路の絵を使用しています。



「時屋」包装紙→

今回、皆さんには昭和3年に発行されたレシピ集もお配りしています。この中に「どら焼き」の作り方が載っているので、ぜひ作ってみてください(^^)

連絡事項

・今年の「竹灯籠の夕べ」は11月1日（金）・2日（土）です。

※シフトの希望表は9月の月例会で配布します。

※11月の月例会は1日の午後行います。シフト調整・連絡事項のみです。

・10月19日（土）に子ども向けワークショップ「和紙でランプシェードを作ろう！」を開催します。初めての試みです。作ったランプシェードは、「竹灯籠の夕べ」で飾ります。

・シフト連絡の際のファクス番号が変更になります。新しい番号は04-7185-1760です。しばらくは古い番号も使えますが、こちらに届かないなどの不具合が生じる場合もありますので、新しい番号にご送付ください。

・名簿作成の同意書の提出をお願いします。書類が手元にない場合は、ご連絡ください。

次回は・・・

令和元年9月1日（日）午前9時30分

から旧村川別荘新館にて月例会を行います。

少しは涼しくなっているといいのですが…。

どうぞよろしくをお願いします！

令和元年9月11日発行

旧村川別荘市民ガイド事務局

我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課

歴史文化財担当：斉藤、海老原、手嶋、今野

〒270-1166

我孫子市我孫子 1684 番地

TEL:04-7185-1583 (直通)

E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

旧村川別荘だより



150号

9月の月例会が開催されました

9月1日(日)に月例会が開催されました。気づけば旧村川別荘だよりも150号!これもひとえに皆様のご尽力の賜物です!この場を借りて担当一同お礼申し上げます。

竹内神社祭礼について

9月の14日～16日まで、布佐の竹内神社の祭礼が催されます。この祭礼が市の指定文化財に指定されるかもしれないということもあり、今回取り上げてみようと思います。

●祭りとは?

まずは、祭りとはどういうものか考えてみましょう。祭りの定義として、「年中行事であること」、「人々が集団で参加し、参加者が一定のルールで行動すること」、「人々の関心を集めるシンボルがあること」、「人々に非日常的な意識を作り出すこと」が挙げられます。また、祭りといっても村とまち、伝統的なまつりと新しいまつり、宗教的背景の有無など様々です。近年では商業的にはじまった祭りが神事に寄り添っていくというケースもあります(例:表参道のよさこい祭りなど)。ここでは「神」を戴く祭りについて考えてみましょう。

①神とは

神とはいったいどんなものなのでしょうか。恵比須様などは想像しやすいですが、例えば竹内神社の祭神であるアメノカグツチノミコトと言われて、その姿がイメージできるでしょうか。



↑イメージしやすい恵比須様

日本では鏡や剣など物の形をして顕れることもあります。また、そもそも神の容姿については神の姿を直接拝することを忌む伝承が多いため、イメージ



アメノカグツチノミコト…?

する必要がなかったということもあります。

②祭りの運営集団

祭りの運営には家、家族、地域社会、職能集団(狩人、木こり、漁師など)、特定の教義を共に信奉する人々(宗教的なもの)など様々な集団が関わります。祭りは集団行事のため、個人で行うものは個人的祈願となり、祭りとは言いません。

③祭りの流れ

神様を迎え、もてなし、送る。基本的にはこの3つが行われます。

まず、神様を迎える前に身を清めます(潔斎)。潔斎には積極的なもの(宮司に祈祷してもらう、神社などで手水舎から水を汲み手を清める)と消極的なもの(部屋に籠るなど、外界の「穢れ」から離れることで身を清める)があります。

次に、神様を迎えます(神迎え)。現在では神様は神殿や神棚にいますが、古来、神は「常在しない」と考えられていました。そのため祭りの際には臨時に神座を設けて神様を迎え、終了とともに元いた場所へお帰りいただいていた。

では、神様はどこにいたのでしょうか?以下の3つが挙げられます。

- イ. 高所や木の上から直接降りてくる(垂直降臨)
- ロ. 海からやってくる(水平来臨)
- ハ. 木や石、山や田に宿る

いずれもその地へ迎えに行き、神輿に乗せ祭りの場までお連れしていたのです。

お迎え後は、神様をもてなします。献饌(お供え物を供える)し、近侍(神様の近くに行く)・直会(献饌のものを神様と一緒にいただく)を行います。この後、願意の謹告(神様へのお願ひ)を行うのですが、この際、予言・託宣という形で神様からの言葉をいただくために踊りを踊ったり音楽を奏でたりすることもあり、これが地域の芸能として独立することもあります。

神様をもてなしたあと、地域をぐるっと練り

回り、もといた場所までお送りします(神送り)。

④祭りの機能

自分にとって利益のある神や、祈りの内容(願意)に応じて神をイメージし、それらの神と関わり続けることで、神に働きかけ、神の持つ力を自分の願いに有利な方に導くために行う行為(積極的・消極的にかかわらず)が祭りと言えます。

●竹内神社の祭礼

いよいよ今回の目玉、竹内神社の祭礼についてです。この祭礼はもともと9月14日から16日までの3日間と決まっていたのですが、近年では14日を含む3連休で行われています。今年は冒頭でも申し上げたとおり、元来の日程どおり14日～16日に開催されます。



広報あびこで

は享保年間に始まった、と言っていますが正確なところはわかっていません。ただ、地元の方々が祭りのルールを書き連ねている『祭礼協定書』には享保21年に神輿を新調したとあるので、この時には祭りを行っていたのは確かなようです(ただし神輿に関しても昭和11年に書かれた『布佐町史』には明治29年に新調とあるので、どの記述かが正しいかは不明です)。

◎竹内神社祭礼の概要

【基本情報】

- ・祭りは1丁目・2丁目・3丁目・大和町・上町の5町で行います(実際の住所とは異なります)。
- ・神輿を担ぐのはその年の当番町で(1年ごとに持ち回り)、御飯屋(神輿が一時的に休む飯宮)は当番町の敷地内に置きます。
- ・山車は各町ごとに出し(神輿を担いでいる間、当番町は山車を出せません)、山車の上で神楽やお囃子を行います。演目は各町ごとに異なります。
- ・御飯屋に神輿を安置している間、警護役を置きます。夜は寝ずの番です。

【初日】

神社で式典を行い、神様を神輿に遷します。神輿を担ぎ、約60段の急な石段を降りると(宮出し)、神輿を先頭に山車とともに町内を練り回ります(連合渡御)。夜になると、神輿は御飯屋に安置されます。

【2日目】

この日、神輿は出ません。山車が町内を巡ります。夜になると御飯屋の前に各町の山車が集まり、競争(競演)を行います。

【3日目】

神輿と山車で町内を練り回ります。夜にはナリタヤ駐車場で山車の競争(競演)を行い、その後神輿が山車を引き連れ竹内神社まで向かいます。神社に入る前に「丁跨ぎ」(国道から参道へ出たり入ったりする)を行い、1日目と同じ急な石段をのぼって境内に入り(宮入り)、しばらく境内を回った後神様を本殿へ戻します。

この祭礼は元来、神輿を担げるのは男性だけでした。しかし、昨年から通常の神輿が動かない2日目の山車の競争中に、子ども神輿を使った「女衆神輿」が始まりました。古くから伝統に則り続く祭りであっても、新しい風を取り入れて変わっていく部分もあるのですね。

今年の竹内神社の祭礼は、令和を記念して花火が特別にあがるそうです(80発超)!

ご都合が合う方は、ぜひ一度、勇壮な布佐のまつりにお出かけください!

今年の当番町(1丁目)が作ったホームページもご覧ください(^)

HP <https://fusasairei.wixsite.com/takeuchisairei>

連絡事項

- ・「竹灯籠の夕べ」について、お手伝いいただける方を募集します!シフト同様9月25日(水)までに文化・スポーツ課までご連絡ください。
- ・11月の月例会は1日(金)午後になります(シフト調整のみ)。詳しくは来月の月例会でお伝えします。
- ・12月の視察についての詳細は、来月の月例会でご連絡します。
- ・**名簿作成の同意書の提出**をお願いします。書類がお手元にない場合は、ご連絡ください。

次回は・・・

令和元年10月1日(火) 午前9時30分

から旧村川別荘新館にて月例会を行います。

どうぞよろしくお祈りします!

令和元年10月7日発行

旧村川別荘市民ガイド事務局

我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課

歴史文化財担当：斉藤、海老原、手嶋、今野

〒270-1166

我孫子市我孫子 1684 番地

TEL:04-7185-1583 (直通)

E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

旧村川別荘だより



151号

10月の月例会が開催されました

10月1日(火)に月例会が開催されました。
10月だというのにまだまだ暑いですね。この時期こんなに暑かったかなあ?と毎年思っている気がします。季節の変わり目は風邪をひきやすいため、体調にはどうぞお気をつけください。

12月3日の研修会について(事前学習)

今年度の研修会は、12月3日(火)茨城県つくば市の矢中の杜・平沢官衙遺跡、同稲敷市の大日苑を見学します。月例会では事前学習ということで簡単に概要についてお話ししました。

●つくば市について

茨城県つくば市は、昭和62年に筑波郡谷田部町・大穂町・豊里町、新治郡桜村が合併して誕生し、翌年には筑波郡筑波町、平成14年に稲敷郡荃崎町を編入し、現在の市域となりました。人口は9月1日現在240,274人で県内では水戸市に次いで人口が多い市です。筑波研究学園都市としても有名です。

◎矢中の杜(つくば市北条94-1)

- ・平成23年に「旧矢中家住宅主屋ほか2棟1基」として国の登録有形文化財に登録された。
 - ・地元の実業家・建材研究家でもあった矢中龍次郎が建設。
 - ・矢中龍次郎は明治11年に生まれ、満州に渡り油脂化工社を設立。セメント防水材「マノール」を開発(現在は社名を『株式会社マノール』に変更)。
 - ・住宅は伝統的な和風建築をベースとしつつ、矢中氏の研究結果が反映された独特の構造や材料が取り入れられている。
- 例)母屋の山吹色の外壁は、彼が発見した塗料「山富貴酸化黄」を、外壁材は彼が開発した「矢中防火板」を使用。
- ・「矢中の杜」という名称は新旧の所有者にちな

んでつけられたもの。矢中龍次郎の死後、40年ほど空き家となる。平成20年に所有者が「森」氏に変更したことを機に筑波大学の学生が中心となり保存活用の活動が始まり、1年以上かけて公開・見学ができる状態にした。

- ・現在はNPO法人が管理・運営を行っている。

★登録有形文化財って?

平成8年に設けられた、文化財登録原簿に登録する制度です。登録基準(建造物)は、「建設後50年を経過している」もので、かつ①国土の歴史的景観に寄与している②造形の規範となっている③再現することが容易でない のいずれかにあてはまるものであること です。

★市の指定文化財と国の登録有形文化財ってどっちがいいの?

⇒市の指定文化財の方が文化的価値評価が高いと言えます。

【理由】

- ・指定文化財は、重要なものを国・都道府県・市町村が指定し保護する制度です。これは重要な文化財を厳選し、許可制等の強い規制と補助金等の手厚い保護を行うものです。
- ・登録有形文化財は届出制と指導・助言等を基本とする緩やかな保護措置を講じるもので指定制度を補完するものです。

☆指定と登録は重複することができません。我孫子市の「旧井上家住宅」も市の指定文化財に指定する際、国の登録有形文化財の登録を抹消した経緯があります。

◎平沢官衙遺跡(つくば市平沢353)

- ・昭和55年国の史跡に指定。
- ・奈良・平安時代の郡の正倉と推定される、地方官衙(役所)の代表的遺跡。

・平成5～6年に
行った本格的な
発掘調査で、掘立
柱建物跡 55 棟
や、土師器・須恵
器が少量出土。



・平成15年に
一般公開が開始された「平沢官衙歴史ひろば」に
は、当時の建物が3棟復元されている。

古代の律令制は全国を国に分け、その下に
郡・郷・里を置きました。713（和銅6）年
に編纂され、721（養老5）年に成立した
『常陸国風土記』によると、国府は現在の石
岡市に置かれており、その下に新治、白壁
（真壁）、筑波、河内、信太、茨城、行方、香
島（鹿島）、那賀（那珂）、久慈、多珂（多
賀）の11郡があったとされています。平沢
官衙遺跡は、このうち筑波の郡衙（役所）の
正倉（租税として集められた稲などの保管倉
庫）跡です。

●稲敷市について

稲敷市は、平成17年に江戸崎町、新利根町、
東町、桜川村が合併し誕生しました。人口は9月
1日現在で40,776人です。

◎大日苑（稲敷市江戸崎甲2354）

- ・平成19年に「旧植竹庄兵衛家住宅洋館ほか2
棟」として国の登録有形文化財に登録。
- ・江戸崎入り干拓の生みの親、植竹庄兵衛の住宅
として建設。
- ・植竹庄兵衛が行った江戸崎入り干拓は、昭和
14年からはじまり32年に完成。干拓面積は
235ha。現在は通称稲波（いなみ）干拓と言わ
れ、オオヒシクイの越冬地として知られている。
- ・洋館はアール・デコなどの影響がみられる。和
館は欄間にステンドグラスを用いるなど凝って
いる。
- ・海軍軍人であった皇族の久邇宮朝融王（昭和皇
後の兄・平成天皇の伯父）が土浦海軍航空隊へ通
う際に一時住居としていた。戦後は結婚式場や宴
会場として使用。

★オオヒシクイとは？

ガンの一種の渡り鳥で、国の天然記念物で
す。環境省のレッドリストでは純絶滅危惧種
に指定されています。ヒシクイという名前は
水草のヒシの果実を食べることが由来です。
体長は約90cmと大型で、嘴の先がオレンジ
色になっているのが特徴です。日本での代表
的な越冬地としては、新潟県福島潟、宮城県
伊豆沼、石川県片野の鴨池などありますが、
関東地方では稲波干拓地が唯一の越冬地
です。毎年11月になると、オオヒシクイの
群れがロシアのカムチャッカ半島からやって
くるそうです。

今回訪れる矢中の杜と大日苑は、①昭和初期に
地元の実業家の住居として建てられたこと②当
時としてはユニークな建築であること③現在は
NPOなどがガイドや家の保全などを行っている
ことと様々な共通点があります。旧村川別荘を
ガイドしていただく際にも、共有していただける
部分が多くあると思いますので、皆さまぜひ研修
会にご参加ください！

連絡事項

- ・10月8日（火）～14日（月・祝）まで、駅か
らハイキングのコースに旧村川別荘が入るため、
来荘者が増える可能性があります。
- ・「竹灯籠の夕べ」について、お手伝いいただけ
る方がいらっしゃいましたら文化・スポーツ課まで
ご連絡ください。当日飛び込み参加も大歓迎！
- ・11月の月例会は1日（金）午後1時30分か
らです（シフト調整のみ）。
- ・12月3日の研修会申し込みは、10月24日
（木）までです。皆さま奮ってご参加ください。
- ・ちょっと宣伝を…旧武者小路実篤邸跡の公開を
今年度も行います。今回は往復はがき、電子申請サ
ービスで10月20日（日）（当日消印有効）まで
お申し込みいただけます。よろしければご応募く
ださい！詳しくは広報あびこ10月1日号7面、
市ホームページをご確認ください(^)

次回は・・・

令和元年11月1日（金）午後1時30分
から旧村川別荘新館にて月例会を行います。
どうぞよろしくお願ひします！

旧村川別荘だより

～「竹灯籠のタベ」特別版～



152号

令和元年 11月13日発行
旧村川別荘市民ガイド事務局
我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課
歴史文化財担当：斉藤、海老原、手嶋、今野
〒270-1166
我孫子市我孫子 1684 番地
TEL:04-7185-1583 (直通)
E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

11月の月例会が開催されました

11月1日(金)に月例会が開催されました。この日は竹灯籠のタベの初日。いつもと異なり、午後1時30分から開催しました。

今回は、竹灯籠の様子をお伝えします(特別版のため、今号は短めです)。

竹灯籠のタベ

《1日目》

月例会終了後、さっそく準備がはじまります。

- ①竹を並べ、如雨露(じょうろ)で水を入れる。
- ②フローティングろうそくを入れ、着火ライター(商標名：チャッカマン)で火をつける。

余談ですが、如雨露って漢字で書くと綺麗ですよ。漢字の「如雨露」は「雨露の如し」の意味と音からの当て字で、江戸時代には「上露」「上漏」「如露」などの字も当てられていたそうです。



↑完成図

ガイドの皆さんはもう心得たものばかり、こちらがお願いするまでもなくてきぱき動いていただき、竹灯籠初体験の担当としては大変助かりました。この場を借りてお礼申し上げます(^)

●SPレコード演奏会



1日目はSPレコードの演奏会です。ジャズの名曲から、なつかしの邦楽まで、さまざまな曲が披露されました。個人的には、アンコールで演奏された藤山一郎「東京ラブソディ」が良かったです。

イベント終了後、ろうそくの火を消し、割りばしで取り除いて1日目は終了です。

《2日目》

2日目も1日目と同じ要領で竹灯籠を完成させます。竹は既に並べてあるので1日目よりは少し楽だったかも…?

●コカリナ演奏会

2日目はコカリナの演奏会です。今回はソロの他にアンサンブルでの演奏もありました。澄んだ音色が荘内に響き渡ります。



最後にコカリナを伴奏に皆で合唱し、聴衆と演奏が一体となる素敵な空間が生まれました。

最終日は1日目の終了後と同じ作業のほか、竹の撤去もありました。皆さまのご協力で、こちらも1時間ほどで終了しました。

皆さま、ありがとうございました!!

《竹灯籠のタベ 報告》



今年は両日とも好天に恵まれ(かなり珍しいとか…)来荘者は2日間で440名でした。今後もPRや周知につとめ、より多くの方に来ていただけるように頑張ります(^)

連絡事項

- ・12月の月例会は3日(火)研修地へ向かうバスの中で行います。1日には開催しませんので、お間違えのないようお願いいたします(*。*)
- ・12月5日(木)10時から白樺・杉村の内覧会を開催します。詳しくは同封のお知らせをご覧ください。

次回は・・・

令和元年12月3日(火)研修地行きのバスの中で月例会を行います。

どうぞよろしくお祈りいたします!

旧村川別荘だより



153号

令和元年12月11日発行
 旧村川別荘市民ガイド事務局
 我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課
 歴史文化財担当：斉藤、海老原、手嶋、今野
 〒270-1166
 我孫子市我孫子1684番地
 TEL:04-7185-1583（直通）
 E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

12月の月例会が開催されました

研修会当日、バスの中で月例会を開催しました。12月と1月のシフトを調整したほか、辻講師による「郡衙遺跡を探る」と題した講演もありました。平沢官衙に向かう前に、事前に知識を蓄えることができたのではないのでしょうか。

市民ガイド研修について

12月3日(火)、市民ガイド研修会を行いました。その様子をご紹介します。

●矢中の杜（つくば市）国の登録有形文化財

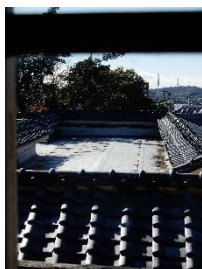


つくば市北条にある矢中の杜は、北条出身の実業家、矢中龍次郎によって昭和13年から28年にかけて建て

られました。矢中は建材の研究家でもあり、この住宅は矢中の研究の成果を盛り込んだ「実験住宅」といえます。居住棟である本館と、迎賓棟である別館からなります。

◎本館（居住棟）

木造平屋建てで、女中部屋や台所、書斎などがあります。屋根は防水処理の問題から木造に作るのが難しいとされる「陸（ろく）屋根」となっています（→）。



←書斎

↓女中部屋



←襖の雪華模様

◎別館（迎賓棟）

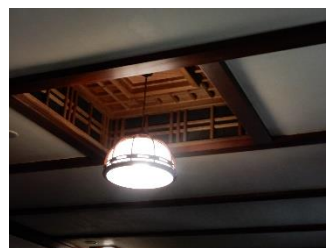
2階建ての別館は、1階にお客様をおもてなしするための食堂、2階に暖炉のある応接間などがあります。食堂西側の杉戸絵は、矢中の友人である画家の南部春邦氏によるものです。また、鴨居上には北川金鱗氏の描いた当時の国立公園12か所の水墨画が部屋を囲むようにあり、ちょっと



した旅気分が味わえます。

矢中は風通しを良くすることで、家が長持ちすると考

え、照明の周りに自然の換気システムを備えました。このほかにもいたるところに通気口があり、矢中の死後40年間ほぼ使われることがなかったこの家が、今もよい状態で残っている理由だと思います（ただし、風通しが良すぎて冬は寒いと矢中も当時の新聞インタビューで語っていたそうです）。



そのほか、天井の圧迫感をなくし部屋を広く見せるため、天井の板にもこだわったり（四隅に中央に向かう木目の板を配置するな

ど）、電気式のストーブをいれるための暖炉をつくったり、さまざまな工夫を凝らしています。



谷中の杜の後は、お昼ご飯と街並み歩きです。北条

の方が矢中の杜と同じく国の登録有形文化財である宮本家（もと醤油問屋）や、無料休憩所・情報発信の場として使われている旧田村呉服店（北条ふれあい館）などを案内していただき、昼食は「あおやま」でうどんをいただきました。

●平沢官衙遺跡（つくば市）

昼食後、すぐ近くの平沢官衙遺跡へ。平沢官衙遺跡は1000年以上前の筑波郡の郡衙（役所）跡で、昭和55年に国の史跡に指定されました。なだらかな丘を登ると、板倉、土壁双倉、校倉と

いった当時の様式で復元された3棟があります。柱跡しか残っていないため、復元はあくまで想像で、絵巻物などを参考につくられています。



実は、我孫子市の湖北特別支援学校にある日秀西遺跡（県指定文化財）も、相馬郡衙の正倉跡です。こちらも平沢官衙遺跡同様重要な遺跡ですが、学校を建設するため埋め戻されてしまいました。タイミングや環境によっては、日秀西遺跡もこの平沢官衙遺跡のように残っていたかもしれませんね。

●大日苑（稲敷市）

大日苑は、江戸崎入干拓と甘田入干拓を完成させた植竹庄兵衛が昭和14年に建てた住宅です。もともと皇族に住んでもらうことも視野に入れて建てられており、建築に際しては近くの大杉神社の宮大工を呼んで建てたそうです。

実際、香淳皇后の兄、久邇宮朝融王が土浦航空隊に勤務されていた折に住居として使用されました。

建物は木造2階建てで、玄関から2階部分はアール・デコ調、座敷の部分は和風のつくりとなっています。しかし、和室の欄間がステンドグラスになっているなど、和と洋が融合した建物です。
↓欄間のステンドグラス



※フルート奏者で女優でもある神崎愛さんは、植竹庄兵衛のお孫さんにあたるそうです！びっく

りされた方も多いのではないのでしょうか？

戦後は「大日苑」として結婚式場や宴会場としても利用されていました。現在ではドラマの撮影や、イベントなどでも使用されています。我孫子市の旧井上家住宅で行われている「貝合わせ」を開催したこともあるそうです（^）



↑和洋折衷の階段



←干拓の様子（絵）

矢中の杜も大日苑もどちらも素晴らしい建築で、ついつい見入ってしまいました。また、実際のガイドの方に説明をしていただいたので、旧村川別荘のガイドの際にも参考になることが多くあったのではないのでしょうか（*^-^*）

連絡事項

- ・12月24日（火）～1月6日（月）まで、ボランティアガイドはお休みになります。1月7日（火）からお願いします。**月例会もこの日です！**
- ・新たに2名の方が、市民ガイドの活動に参加して下さることになりました！しばらくの間は先輩と一緒にガイドに入っていただくこととなりますので、よろしくお願いします（*^-^*）
- ・「ひなのまつり」について、今年は2月26日（水）～3月4日（水）の期間で行います。開催中はガイドさん2名で対応していただく形になります。また、搬入は2月25日（火）午前9時30分から行います。ご協力をお願いします！（詳しくは1月の月例会でお伝えします）

次回は・・・

令和2年1月7日（火）午前9時30分

から旧村川別荘新館にて月例会を行います。少し早いですが、今年もお世話になりました。来年もどうぞよろしくお願いいたします！



←宮本家（つくば市・国登録有形文化財）の秋田犬（女の子）

旧村川別荘だより



154号

令和2年1月10日発行
 旧村川別荘市民ガイド事務局
 我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課
 歴史文化財担当：斉藤、海老原、手嶋、今野
 〒270-1166
 我孫子市我孫子 1684 番地
 TEL:04-7185-1583 (直通)
 E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

1月の月例会が開催されました

あけましておめでとうございます。
 1月7日(火)に月例会を開催しました。
 新しい元号となって初めてのお正月、皆さまはいかがお過ごしでしたでしょうか。私はたくさんお餅をいただいたからか、体が重く感じます(ー;)。最近インフルエンザも流行っているようですので、体調にはどうぞお気をつけください。

天皇の代替わりと井上家

昨年は元号が令和に代わり、即位の礼や大嘗祭が行われました。実は、布佐の井上家も天皇の祭祀と関わりがあったのです！今回はそのお話です。

●大嘗(だいじょう)祭

(1) 新嘗(にいなめ)祭

大嘗祭についてお話しする前に、新嘗祭についてお話しします。

新嘗祭は五穀豊穡を神に感謝する重要なまつりです。その年の新穀を諸神に供え(神饌)、天皇も食します。神饌は稲作物、鮮魚、干物、果物など。稲作物以外は筥(はこ・葛(かずら)箱)に納めます。新嘗祭は宮中だけでなく、広く民間でも行われました。名称は穂掛け祭り、刈り上げ祭りなどと言われることもあります。この祭りは古くは11月の下の卯の日が当てられていましたが、明治6年に新暦を採用したことに伴い11月23日に行うことになりました。

(2) 大嘗祭

◎大嘗祭とは

天皇の即位後に初めて行われる新嘗祭のことで、一世代の祭儀です。大嘗祭が行われた年は新嘗祭は行われません。

大嘗祭は7世紀後半の天武朝のころ開始されたとされます。平安中期に編纂された『延喜式』には、大祀(律令国家において最も重要な祭祀)とされたのは大嘗祭のみです。

★大嘗祭と新嘗祭の主な相違点(※平安時代)

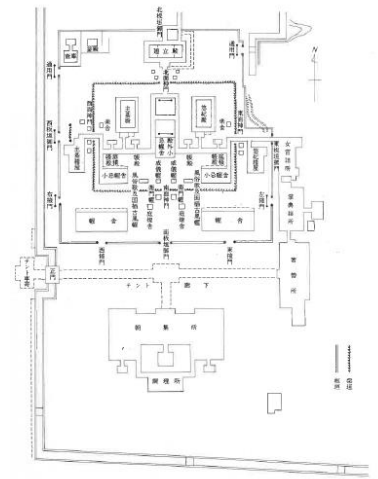
- ①大嘗祭は悠紀(ゆき)、主基(すき)両国に斎田を設定、両国の民が上京して稲作を営むが、新嘗祭では畿内の官田のものを用いる
- ②祭場は大嘗祭では朝堂院に悠紀殿・主基殿を中心とした大嘗宮を仮設するが、新嘗祭では常設の神嘉殿を用いる
- ③大嘗祭は4日間、新嘗祭は2日間

◎時代による変化

大嘗宮を建てる場所も平安時代には大内裏の南中央に位置した朝堂院の前庭にあった竜尾壇が置かれていましたが、平安時代末期に朝堂院が焼失してからは内裏の紫宸殿の前庭や、大極殿の竜尾壇下が利用されました。

後土御門天皇(在位:1464~1500年)以降、東山天皇(在位:1687~1709年)までは大嘗祭や新嘗祭は行われなかったようです。東山天皇の即位時には簡略な形で復興され、次の中御門天皇の際は挙行せず、桜町天皇(1738年)以降は継続して挙行されています。しかし、長期にわたる中断のため儀式の場所や方法など、細部はかなり変わっています。

明治4年、初めて東京で大嘗祭が行われましたが、明治42年に公布された「登極令」(明治憲法及び旧皇室典範の下の天皇の踐祚・即位礼・大嘗祭・元号に関して規定していた旧皇室令。1947年に廃止)によって京都御所昭和度の大嘗宮平面図→



昭和度の大嘗宮平面図(『昭和天皇御紀』より)

で挙行することが定められ、大正・昭和はここで行われました。

●井上家とのかかわり

(1) 新田開発

井上家は、12代当主井上二郎が昭和2年に120町歩(119ha、100m×100mが1町歩)の開墾を目指し事業を計画しました。

井上二郎は東京帝国大学で学んだ土木技師で、自らの知識・経験をもとに大規模な新田開発を行いました(堤防を築造し手賀沼からの水の侵入を防ぎ、揚排水機を設置。用排水路を掘削し、道路橋梁を設けて交通運搬の便をよくするなど)。

2年かけて開田し、昭和4年には1反あたり6俵(360kg)の収穫を行いました。江戸時代、1反あたりの収穫が150kgであったことを考えると、かなり豊作だったのではないのでしょうか(ちなみに、現代農法だと1反あたり600kg収穫できるそうです)。

(2) 献穀田の指定

◎献穀田とは…新嘗祭・大嘗祭に献納する新米をつくる田のこと。献穀田に選ばれた田を斎田といい、東日本・西日本各1か所ずつ選定される。東日本の斎田を悠紀田、西日本を主基田と言う。悠紀、主基の地域は亀ト(きぼく)によって決められた。悠紀、主基の意味については諸説あるが、ユキは聖域、スキは副次の意とする説が有力。

亀トの法…薄く加工したアオウミガメの甲羅を将棋の駒形にし、これに町形を彫り、波々加(ははか・ウワミズザクラ)の木で焼き、その裂け方によって判定する。

井上家は昭和10年の新嘗祭で献穀田に選ばれました。この時の記念碑が井上家の前にあります。興味がある方はぜひ現地をご覧ください。

献穀田に指定されるのは名誉なことですが、生産者はかなりプレッシャーを感じたようです。井上家に残る献穀田に関する覚書からも、細心の注意を払って稲を育てていたことがわかります。

この覚書には、10月10日に抜穂式を行い、15日に県庁内の受納式で感謝状と銀杯を授かりました。翌16日には宮内庁に夫婦で参内し、

記念のお菓子などをもらい、新宿御苑御苑などを案内してもらったと書かれています。

★貰ったお菓子の絵(覚書より)。

覚書には「菊桐形ノ御菓子ヲ下サル奉耕者ニハ五ツ入ノ箱ノモノ随行者ニハ三ツ入ノ白布包ンデア」と記されています。

宮中に入るには男性は紋付羽織袴またはモーニングとフロックコート、女性はなるべく白襟の紋付でというドレスコードがあったようです。



以上、天皇の代替わりと井上家についてお話ししました。代替わりの際の様々な行事のうち、最も重要とされる行事の一つである一せ一代の祭儀、大嘗祭。名称が異なるものの、同様の行事であり毎年行われる新嘗祭。その新嘗祭で井上家が果たした役割。こうして並べてみると、意外なところで関わりがあることがわかりますね。

連絡事項

- ・2月1日(土)の月例会では、消防署立ち合いのもと防火訓練を行います(月例会はシフト調整のみ)。冬場は空気が乾燥し火災の危険性が高まります。万が一の時のためにぜひご参加ください。
- ・今年のひなのまつりは2月26日(水)～3月4日(水)となります。期間中はお客様が多いと思いますが、どうぞよろしくお祈りします m(_ _)m
- ・ちょっと気が早いですが…来年度の研修会の日程が決定しました! 5月19日(火)、場所は佐原です。詳細は今後の月例会等でお知らせしますので、しばしお待ちください。爽やかな季節の開催になりますので、ぜひご参加ください(^)

次回は・・・

令和元年2月1日(土) 午前9時30分
から旧村川別荘新館にて月例会を行います。
どうぞよろしくお祈りします!



旧村川別荘だより



155号

令和2年2月5日発行

旧村川別荘市民ガイド事務局

我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課

歴史文化財担当：斉藤、海老原、手嶋、今野

〒270-1166

我孫子市我孫子1684番地

TEL:04-7185-1583（直通）

E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

2月の月例会が開催されました

2月1日（土）に月例会を開催しました。月例会の発表はお休みし、代わりに消防訓練を行いました。

今年は暖冬で、1日も暖かい日だったので、訓練日和だったのでは？と思っています。

文化財防火デー

○ 文化財防火デーとは

毎年1月26日は「文化財防火デー」となっています。そのため、2月の月例会では、旧村川別荘で消防訓練を行いました。過去にも、この日の前後に我孫子市内の指定文化財である不葺合神社（ふきあえずじんじゃ）や、旧井上家住宅などで消防訓練を行ってきました。

そもそも文化財防火デーの制定は、昭和24（1949）年1月26日に、現存する世界最古の木造建造物である法隆寺（奈良県斑鳩町）の金堂が炎上し、壁画が焼損したことに基づいています。

この事件は人々に強い衝撃を与え、火災など災害による文化財保護の危機を深く憂慮する世論が高まりました。その結果、翌年に文化財保護の統括的法律として文化財保護法が制定されました。1月26日に決まったのは、①防火意識を広めるために、法隆寺金堂の焼損した日であること、②1月と2月が1年のうちで最も火災が発生しやすい時期であることが候補として挙げられました。

昭和30年に当時の文化財保護委員会（現在の文化庁）と国家消防本部（現在の消防庁）が1月26日を「文化財防火デー」と定め、文化財を火災、震災その他の災害から守るとともに、全国的に文化財防火運動を展開し、多くの人々に文化財の愛護意識の高揚を図っています。

昭和30年の第1回文化財防火デー以来、毎

年1月26日を中心に文化庁、消防庁、都道府県・市区町村教育委員会、消防署、文化財所有者、地域住民等が連携・協力して、全国で文化財防火運動を展開しています。

そして、火災だけではなく、平成23年3月に発生した東日本大震災をきっかけに「文化財レスキュー事業」が近年注目を集めています。

独立行政法人国立博物館と独立行政法人文化財研究所が統合して設置された国立文化財機構が推進する文化遺産防災ネットワークは、非常災害時における文化財などの防災に関するネットワークを構築するとともに、そのために必要な人材の育成、情報の収集、分析、発信を行い、それらを踏まえ有事における迅速な文化財等の救出活動を行うための体制を構築するため広く国内の博物館、美術館、図書館、文書館などで組織される団体や、地域史料ネットワーク、各種学会等の24団体の参画を得て構成されています。川崎市も台風19号で被災した際は、文化庁にこのネットワークを要請し、必要と判断した文化庁は国立文化財機構に技術的支援の協力を依頼しています。このように文化財を守るためにさまざまな分野や地域でネットワーク化が進められています。

○旧村川別荘の防災訓練レポート

当日は、月例会にお集まりいただいたガイドさん18人、シルバーさん、近隣住民の方と、たくさんの方にご参加いただき、無事に消防訓練を行うことができました。

今回の放水訓練は、150m離れた消火栓から長いホースを使い、水を引き入れました（次ページの写真をご覧ください）。上の門から出た先にある坂から、子の神さんの門がある通りまで伸びるホースです。



上の門の前に消防車が停まっていた。訓練でも緊張しますね。



母屋に放水しました。迫力があるシーンです！



消防隊員の方のご指導のもと、実際に消火器を操作して訓練を行いました。消防隊の方から教えていただいたポイントは

まず火災を発見したら…

- ①大声で火事であることを知らせる。
- ②自分の逃げ道を確認したあと、消火器の黄色い線を抜く。

③レバーを押すとすぐ出てしまうので、押す前にコードを外して火に向けてから、レバーを押します。

④炎の上だと、火は消えないので、元を狙って消火しましょう。



災害は起きないことが一番ですが、日頃からの心構えで初動が変わります。今回の消防訓練は、基本を復習する良い機会でした。

ご参加いただき、ありがとうございました！



連絡事項

- ・今年のひなのまつりは2月26日(水)～3月4日(水)となります。25日(火)は休館日なので、搬入作業を行います。9時30分から雛壇飾りの設置を行いますので、もし、お時間がございましたら、お手伝いをお願いします m(_ _)m
- ・5月の研修については、3月の月例会で出欠表を配ります。
- ・4月の月例会は年度初めになりますので、10日(金)に開催します。1日ではないので、お気を付けてください。

次回は・・・

令和元年3月5日(木) 午前9時30分

から旧村川別荘新館にて月例会を行います。3月の月例会はひなのまつりの撤収作業とあわせて行います。シフト調整の後、雛壇飾りの片づけをしますので、お時間がある方は、お手伝いをよろしくお願い申し上げます。

旧村川別荘だより



156号 臨時号

令和2年3月23日発行

旧村川別荘市民ガイド事務局

我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課

歴史文化財担当：斉藤、海老原、手嶋、今野

〒270-1166

我孫子市我孫子1684番地

TEL:04-7185-1583(直通)

E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

臨時号の発行について

新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、3月・4月の月例会及びガイド活動が中止となりました。また、例年多くの方にご来荘いただき「ひなのまつり」も中止となってしまいました。

ガイドの皆様には、ご迷惑やご心配をお掛け致しまして、申し訳ありません。どうぞご理解くださいますようお願い致します。

さて、月例会が開催できない代わりに、今回は臨時号として、辻講師による「スペイン風邪」についてのコラムをお届けします。

コロナ禍と「流行感冒」

○今から100年ほど前の大正7(1918)年から9(1920)年のふた冬に渡って世界を震撼とさせたパンデミックがありました。「スペイン風邪」です。ちょうど村川堅固が我孫子に別荘用地を取得したところのことです。

○第一次世界大戦の派兵訓練をしていたアメリカ国内の兵舎で、高熱を発する集団感染症が認められ、あっという間に学校や工場の寄宿舎に広まり、さらには兵士の移動に伴って港湾から港湾、都市から地方へと伝播しました。3～4日程度で熱が下がるものが多かったが、中には重症化して肺炎を起こして死に至る者も現れ、行政や交通がマヒし、工場が稼働できないなど社会的な混乱をもたらしました。「スペイン風邪」は現在、「インフルエンザ」と私たちが呼ぶもので、スペインで最初に報告されたことから名付けられました。別名「流行(性)感冒」です。光学顕微鏡では原因であるウィルスを特定できず、特効薬もなかったことから、体が弱い人、貧しく劣悪な環境に住んでいる人々には厳しく、全世界で4000万人以上、日本でも内地で45万人、外地で28万人の死者がありました(諸説あり)。

○「流行感冒」と聞いて、志賀直哉の同名の小説を思い出されることでしょうか。志賀直哉は大正4

(1915)年、我孫子に定住し、同12(1923)年まで暮らしています。その間の同8(1919)年に発表したのが「流行感冒」です。まだ読んでいない方にはネタバレになるので詳しく申しませんが、流行感冒が我孫子でも拡がり、それを巡って「私」が心身ともに右往左往する物語です。小説中に「三、四百人の女工を使っている町の製糸工場では四人死んだというような噂」を耳にした、という記述があり、これは昭和60年まで我孫子駅南口で操業していた「山一林組(のち石橋生糸)我孫子製糸場」のことですが、身近なところで未知の病気で若い人々が亡くなる、というのは、幼子を亡くした経験のある志賀にとって「子供の病気に対する恐怖心は今から思えば少し非常識であった(本人談)」と言うくらいリアルな恐怖だったでしょう(岩波文庫『小僧の神様 他十篇』あとがきより)。

○その一方で、「流行感冒」に描かれるのは、「私」の「死」への恐怖に比して、「まちの人々」が普通に「生」を楽しんでいる様子です。芝居見物という非日常を待ち望み、多少のことがあっても駆けつける人々のしたたかでのんびりした姿が、「私」の狼狽を浮かび上がらせる、という巧みな構図です。さすがに小説の神様です(^^)

○さて、この「スペイン風邪」、人々の記憶から遠くなってしまったらしく、小説として取り上げているのは、有名なところで、志賀の盟友 武者小路実篤「愛と死」くらいかな?歴史人口学者の速水 融は、「スペイン・インフルエンザはなぜ忘れられたのか」、について、突然起こって2シーズンで終息してしまったこと、超有名な人が亡くなっていないこと(劇作家の島村抱月が亡くなり、絶望した恋人の女優 松井須磨子が後追い自殺を遂げた、というのが劇的な出来事)、大正12(1913)年に関東大震災という未曾有の災

害が起きたこと、などから、大正デモクラシーと経済発展という変化の激しい時代の中で埋没してしまったのでは、と指摘しています（速水2006『日本を襲ったスペイン・インフルエンザ』藤原書店）。

○思うに、江戸時代から明治時代の人々にとって脅威であったのは「コレラ」、一方、大正から昭和時代初期の人々にとって、最も脅威なのは「結核」でした。結核で年間コンスタントに10～15万人の方が亡くなっています。それも不治の病であり、切実な問題でした。結核によって亡くなった著名人としては、正岡子規、二葉亭四迷、樋口一葉、石川啄木、堀辰雄、滝廉太郎、中原中也などがいます。武者小路実篤も結核と診断され死を覚悟した一人です（ただし武者小路は医者あざなの誤診でしたが！）。スペイン風邪は確かに脅威ではありましたが、結核に比べたら治る可能性も高く、それが故に忘れ去られたのかもしれませんが、第一に「風邪」というネーミングがそれを物語っています。

○だからと言ってスペイン風邪が人々の心理や行動に与えた影響を軽く扱うべきではないと思います。志賀が「流行感冒」で描いた「非常識なほどの恐怖」がスペイン風邪や震災であり、「芝居見物の高揚」が経済発展や大正デモクラシーあざなだとしたら、二つは糾える縄のごとく時代を構成していると思います。また、意識下に置かれた「死」が現実になるとき、不安との葛藤の中から新たな創造や文化が生まれるのだとしたら、戦争や震災と同じく大正という時代の姿としてもっと注視すべきでしょう。

○余談になりますが、「スペイン風邪」で日本に定着した、と言われているのが「手洗い・うがいの励行、マスクの着用」なんだそうです。今回のコロナ禍でも、個人でできる最大の予防策としてはこれに尽きるのでしょうか。一日も早く元の平安な世の中に戻り、ぶらりと散策に出かけられることを願って止みません。



連絡事項

3月19日付の文書及び、旧村川別荘だよりと同封の文書でもお知らせしましたが、現時点での対応は下記の通りです。

- ◎臨時休館：3月24日（火）～4月6日（月）
- ◎4月 月例会及びガイド活動：休止
- ◎5月 月例会 1日（金）
- ◎5月 研修会 延期（秋～冬を予定）

次回は・・・

令和2年5月1日（金）午前9時30分

から旧村川別荘新館にて月例会を行います。

現時点では開催予定ですが、社会状況の変化により変更になる場合があります。その際は、通知でお知らせ致します。

首相官邸ホームページでは、一人ひとりができる感染症対策として、（1）手洗い （2）普段の健康管理 （3）適度な湿度（50～60%）を保つこと、また、他のひとにうつさないための咳エチケット（咳・くしゃみをする際、マスクやティッシュ・ハンカチ、袖、肘の内側などを使って、口や鼻をおさえること）を挙げています。職員一同、5月の月例会で皆さんにお会いできるのを楽しみにしています！



3月23日撮影：子の神の桜
あいにくの雨。桜は3分咲き
くらいでした。